

半導体漫遊記

20

湯之上隆

8月4日、東北大学で、博士課程の学生を対象に「近代技術史学―集積回路」の集中講義を行った。この講義は、江刺正善教授から依頼された。江刺先生は、マイクロマシン/MEMS(微小電気機械素子)で世界的に有名な教授である。大変に光栄に思っ、二つ返事で引き受けた。

9時間全部を一人で講義するとは思えないので、秘書の方に、「9時間のうち、私が担当

これは大変なことになる。筆者は、講演になった。筆者は、講演1時間当たり、パワーポイントの資料を50枚用意する。そして、その準備に大体10時間かかる。すると、この集中講義に必要な資料は375枚、準備時間は

作り、集中講義に臨んだのである。9時間の集中講義は、さすがに集積回路の資料を50枚用意する。そして、その準備に大体10時間かかる。すると、この集中講義に必要な資料は375枚、準備時間は

大変なのだ。この集中講義は、8月2日―5日の4日間行われた。後半になると、声はかすれ、足が担当した。上記の通り、一日でヨレヨレになった。ところが、江刺先生は、それ以外の

う器用なことから、「ゴールド・フィンガー」の持ち主と言われている。この伝統は受け継が

ところが、「操作が難しい」「携帯電話はお使いにならない。この伝統は受け継が

東北大で9時間集中講義

学生ら最後まで熱心に

するのは、何時間ですか」と質問した。すると、「全部です」と言う回答である。「本当に9時間の講義ですか」と念を押すと、「昼休みと途中2回の休憩を除けば、実質7・5時間ですよ」と返事が来た。

75時間になる！

ず、憧れの江刺先生が、ずっと最前列で聴いて下さったことだ。そして、講義時間が30分ほど延びてしまった。

3日間を全て一人で講義するのである。このスタミナは、ただ事ではない。恐れ入ってしまった。

7月に入ってから、そろそろ講義準備をしようと思っ、送付されていたシラバス(講義計画)を確認すると、講義時間が午前8時50分―午後5時50分となっている。まさか

「昼休みと途中2回の休憩を除けば、実質7・5時間ですよ」と返事が来た。

分ほど延びてしまった。

それにしても江刺先生はユニークな教授である。手作りで装置やデバイスを作っていた時代に、手先がめっぼ



ゴールド・フィンガーの持ち主
東北大学の江刺正善教授



T型フォードが運転できる
東北大学の田中秀治准教授

9時間の集中講義で
くたくたになった筆者

れているようで、江刺研究室の田中准教授は、クルマのメカに大変詳しく、1908年に発売されたT型フォードを現在でも運転できる数少ない人なのだ。そうだ(東北大学にはT型フォードが展示されており、田中先生の作成した運転マニュアルが添付されている)。その田中先生も、江刺先生と同様に携帯電話は持っていない。

江刺先生も、田中先生も、ミクロの世界の権威者なのに、「携帯電話が苦手」と、奇妙なアンバランスが何とも不思議で魅力的な先生たちである。(半導体技術者・社会科学者)